

鎌倉の埋蔵文化財24

Buried Cultural Properties in Kamakura 24

平成31年・令和元年度発掘調査の概要



令和3年(2021)3月
鎌倉市教育委員会

ごあいさつ

私たちが暮らす鎌倉市は、源頼朝が武家による政治をはじめた地として知られ、鎌倉時代の町なみをはじめとして、旧石器時代から江戸時代に至る人々の生活の痕跡が埋蔵文化財として残されています。

これらの埋蔵文化財は、家屋の建築や、開発事業などの土木工事により失われてしまうことも少なくありません。これは、鎌倉の貴重な歴史遺産が失われてしまうことにもつながりますが、現代に生きる私たちが生活を営んでいく上では避けられないことでもあります。

このようにやむを得ず失われることとなる埋蔵文化財も、発掘調査を実施し、その調査成果と記録を着実に積み重ねて検証していくことで、鎌倉の歩んできた歴史の解明につながっていきます。

鎌倉市教育委員会では、発掘調査関係者のご協力を得ながら、この『鎌倉の埋蔵文化財』の発行等により、発掘調査の成果を紹介しており、また、鎌倉歴史文化交流館でも出土資料の展示を行っています。

これからも、様々なかたちで発掘調査の成果を公開するよう努めてまいりますので、文化財の保護に対するご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和3年（2021年）3月 鎌倉市教育委員会

～目次～

1	鎌倉から出土した「蘇民将来」の木札	1
2	若宮大路周辺遺跡群（御成町747番地1他地点）	2
3	宇津宮辻子幕府跡（小町二丁目351番、352番地点）	4
4	材木座町屋遺跡（材木座五丁目946番1地点）	6
5	武蔵大路周辺遺跡（扇谷谷三丁目451番の一部地点）	8

～例言～

- 1 本書は平成31年度・令和元年度に市内で実施された発掘調査の概要を中心に掲載しました。
- 2 本書は鎌倉市教育委員会文化財課が執筆編集しました。
- 3 本書の作成にあたり次の方々のご協力をいただきました。深く感謝いたします。
株式会社日本エスコン、株式会社斎藤建設、トーセイ株式会社、三菱地所レジデンス株式会社、有限会社博通（五十音順、敬称略）

《表紙写真》

宇津宮辻子幕府跡（小町二丁目351番、352番地点）上空から若宮大路方面を望む
左手に見えるのは若宮大路二の鳥居

1 鎌倉から出土した「蘇民将来」の木札

北条泰時・時頼邸跡（雪ノ下一丁目369番地点）

Wooden talisman saying "Somin Shorai" excavated from Kamakura

Hojo Yasutoki / Tokiyori Tei Site

疫病を退ける札

右の写真は 1990 年に鎌倉で初めて出土した「蘇民将来」の木札です。約30年前に出土した資料ですが、現在の世情を鑑みて本紙で紹介いたします。

出土した地点は鶴岡八幡宮二の鳥居の北方約100mの若宮大路東側に面した地点で、鎌倉時代には武家屋敷地の一面だったと推定されています。この札は南北朝時代頃（14 世紀）のものと考えられています。

札には「蘇民将来子孫家也急^き々^き如^{ごと}律令」と記されています（□内は推定）。大意は「蘇民将来の子孫の家である。急ぎ^き々^き律令^{りつれい}（法律）の如く（行え）」です。「蘇民将来」という人物については、鎌倉時代に編纂された『備後国風土記』に説話が載っています。「北の海にすむ武塔神が旅の道中、将来という二人の兄弟に宿を借りようと申し出ました。弟の古丹将来は裕福な家でしたが、その頼みを断り、兄の蘇民将来は貧しい家でしたが、武塔神を招き入れもてなしました。数年後、恩返しのために再び蘇民将来の家に立ち寄った武塔神は、蘇民の娘に茅の輪を渡し、その他のものを滅ぼしてしまいました。武塔神は『私はスサノオノミコトである。今後、疫病が流行したら蘇民将来の子孫であると宣言し、茅の輪を身に着ければ、難を逃れることができるだろう』といいました。」この説話がもととなり、蘇民将来は疫病を逃れる信仰となりました。

この札は、上部に穴があり、建物の柱などに打ち付けられていた痕跡があります。また墨書きがされた部分は浮かび上がり、他の木の部分は日光によって痩せていることから、日当たりのよいところに長期間置かれていたことが分かります。疫病から逃れるため「蘇民将来の子孫の家」であることを表示し、何年もの間玄関や門扉に打ち付けられていたのでしょう。この木札は、600年以上前に鎌倉に住んだ人々が、何とかして疫病に打ち勝とうとしていたことがわかる出土資料です。



出展：1991 年 鎌倉市教育委員会発行
「鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7」

2 若宮大路周辺遺跡群(御成町747番1他地点)

Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site

日本中世最大級の井戸を発見

この調査地点は、JR 鎌倉駅から南へ延びる御成通りの南端部西側に位置し、調査地点の西側には佐助川が流れています。今回の発掘調査によって鎌倉時代の半地下式の建物や佐助川の支流と考えられる小河川等が発見されました。中でも注目されるのは、短辺約2m、長辺約4mの長方形の井戸で、全国的に見ても最大級の井戸の発見例です。また市内で発見される中世の井戸は、正方形であることが一般的であるのに対し、この井戸は長方形に作られています。井戸の深さは2.6mまで確認することが出来ましたが、崩落の危険があったため、より深い部分の調査は断念しています。これだけ大きな井戸であれば、染色等の手工業に係る用途があったのかもしれませんが、当該地域の性格を考えるうえで貴重な成果です。

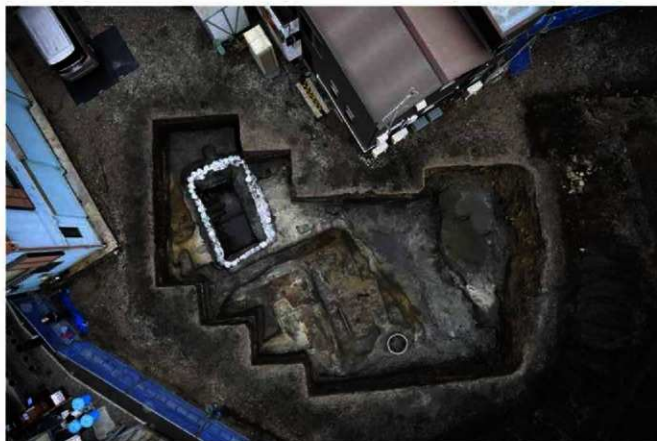


写真1 調査地上空から(白く囲まれた範囲が井戸跡、上が東)

(photo1) The investigation site from above (well remains outlined in white; east is at the top)



写真2 最大級の井戸跡（右のスケール長は4 m）
 (photo2) Largest-class well remains (the right-hand scale is 4 meters long)



写真3 佐助川の支流と考えられる小河川
 (photo3) Small river thought to be a branch of the Sasuke River

3 宇津宮辻子幕府跡 (小町二丁目 351 番、352 番地点)

Utsunomiya-Zushi-Bakufu-Ato Site

幕府の実態に迫るか

鎌倉時代の幕府の所在地とは、鎌倉市中にあった將軍の御所を指します。この幕府（將軍御所）は、2 回場所を移しており、鎌倉時代初期から嘉祿元年（1225 年）までが大倉幕府、嘉祿元年（1225 年）から嘉禎二年（1236 年）までが宇津宮辻子幕府、嘉禎二年（1236 年）から元弘三年（1333 年）までが若宮大路幕府と呼ばれています。このうち本調査地点は宇津宮辻子幕府の推定地にあり、若宮大路に面した二の鳥居の東方に位置します。

調査区西側では、後世の掘削により遺跡が大きく壊されており、詳細は判然としませんが、鎌倉時代前期（13 世紀前半）と推定される地層からは、若宮大路と軸を揃えた掘立柱建物や、半地下式の倉庫と考えられる建物、井戸などが発見されています。建物跡では、柱の沈下防止のために柱の底に据えられた礎板と呼ばれる板材が発見されています。これらの建物跡が宇津宮辻子幕府の一部であるとは即断できませんが、今後の研究のための貴重な調査例です。



写真4 発見された柱の穴や井戸の跡

(photo4) Discovered remains of postholes and a well



写真5 礎板が残る柱穴 (photo5) Posthole with remaining foundation plate



写真6 底面に曲げ物が据えられた井戸跡 (photo6) Remains of a well with a circular box at the bottom

4 材木座町屋遺跡 (材木座五丁目 946 番 1 地点)

Zaimokuza-Machiya-Iseki Site

寺院の跡か

調査地点は若宮大路から九品寺に至る道路の南側に位置します。材木座の上河原付近から滑川河口付近の海岸線までは、鎌倉時代は干潟あるいは入り江状になっていたと推定されています。調査地点は入り江部分の海岸線の東側にあたります。調査では鎌倉時代中期から江戸時代前期の遺跡が確認されています。

鎌倉時代後期から室町時代の地層からは、数多くの柱を建てるための穴(柱穴)や、泥岩で舗装された道路の跡、庭と推定される玉石敷きも発見されています。玉石の大きさは、基石から子どもの拳ほどの大きさで、一部では 10 cm 以上の厚みがありました。また、周辺からは鬼瓦や平瓦、丸瓦が多く出土しており、瓦葺きの建物の存在が考えられます。玉石敷きの庭と瓦葺の建物が併せて発見されたことから、寺院の跡が想定されます。調査地点周辺には新居の闇魔堂(現在の円応寺)があったという説もあり、研究の進展が期待されます。



写真7 泥岩で舗装された道路
(photo7) Mudstone-paved road



写真8 石組みで造られた道路の側溝
(photo8) Roadside gutters made of stonework



写真9 出土した玉石敷き
(photo9) Excavated cobblestone pavement



写真10 軒平瓦 (上) と鬼瓦 (右)
(photo10) Eave-end roof tile (top)
and ridge-end tile (right)

5 武蔵大路周辺遺跡(扇ガ谷三丁目451番の一部地点)

Musashiooji-Shuhen-Iseki Site

饗宴のあと

この調査地点は、扇ガ谷にある岩船地藏堂いわふねじざうどうの北東近隣にあり、前面の道路を北に進むと亀ヶ谷坂かめがやつかに至ります。遺跡名の「武蔵大路」は鎌倉と武蔵国（現在の東京都、埼玉県、神奈川県川崎市及び横浜市の一部）をつなぐ、当時の交通の大動脈で、その周囲は大変な賑わいだったようです。鎌倉時代の歴史書『吾妻鑑』には、「亀谷辻」や「武蔵大路下」が幕府公認の商業地に定められたことが記されています。

調査では、堀の基礎と考えられる土盛りの両側に大量のかわらけ（土器の皿）が捨てられていました。かわらけは釉薬のかけられていない素焼きの土器で、市内の遺跡から大量に出土します。かわらけは饗宴の際に食器として使用され、一度口をつけると穢れが移ると考えられており、一度限りの使い捨てにされたものです。このかわらけが大量に出土することは、大規模な饗宴が執り行われていた証拠です。堀の両側から出土していることは、屋敷の片隅が饗宴の後片付けの場所だったことを示しているのかもしれません。



写真11 調査地点上空から（調査区中央が堀の基礎と考えられる土盛り、上が南）

(photo11) The investigation site from above (an embankment presumed to be the foundation of a fence is in the middle of the investigation zone; south is at the top)



写真 12 一括出土したかわらけ(写真上、下とも)
 (photo12) Masses of excavated earthenware (both top and bottom photos)

かまくら人のセンス

この地点からは多量の木製品も出土しています。出土した飾り板は長さ 35 cm、幅 8 cm、厚さ 5 mm ほどの薄板で、表面の 2 か所に赤く色づけされた♡形の模様がかたどられており、朱漆で彩色されています。「猪目」と呼ばれるこの模様は、魔よけの効果を持つとされる日本古来のデザインです。板の裏面には黒漆が残っているので、当時は全面に黒漆が塗られ、猪目部分のみ朱が塗られていたものと推測されます。

また、木製の漆器も数多く出土しています。黒地に朱で文様が巧みに描かれています。中には幾何学文様と思しきデザインも見られ、かまくら人のセンスの一端がうかがえます。

筆慣らしや筆使いの練習の跡と思われる墨書板も出土しています。この板は、もとは折敷と呼ばれる、薄い木で作った当時の食器トレイで、饗宴の際にはかわらけ等を載せました。この板の両面に墨書きがびっしりと書き込まれていますが、明確な文字ではなく、内容は判然としません。



写真13 猪目文様が刻まれた飾り板の出土状況と拡大写真

(photo13) Decorative panel carved with an inome pattern as excavated, and enlarged photo



写真14 漆器の出土状況 (photo14) Lacquerware as excavated

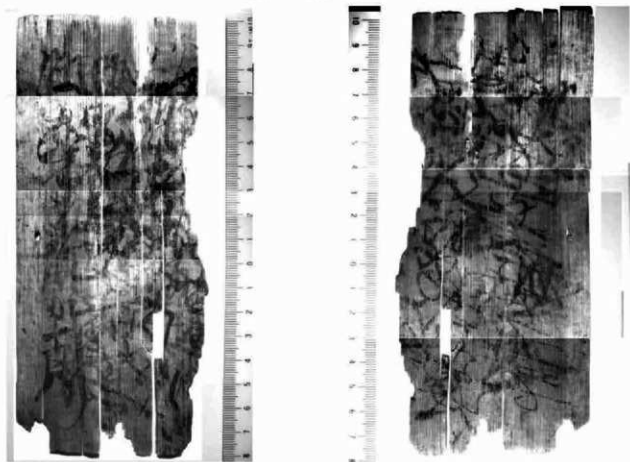


写真15 墨書さのある折敷板(赤外線写真) (photo15) Orishiki panel with India-ink writing (infrared photo)

Buried Cultural Properties in Kamakura 24

1. Wooden talisman saying "Somin Shorai" excavated from Kamakura Hojo Yasutoki / Tokiyori Tei Site (Yukinoshita 1-369)

A talisman to ward off epidemics

The right-hand photo shows the first talisman to ward off epidemics excavated from Kamakura in 1990. It is believed to date from around the Northern and Southern Courts period (14th century). An incantation for warding off epidemics is written on the talisman.

This talisman has a hole in its upper portion, and it retains some traces indicating that it may have been nailed to a post of a building or the like. Fixed to a vestibule or gate door, this talisman probably indicated that the residence was "a house of the descendants of Somin Shorai" for many years and warding off epidemics. (Somin Shorai was a legendary character granted protection from epidemics because he had given shelter to a deity.) This wooden talisman is an excavated item showing that Kamakura residents more than six centuries ago were probably working to overcome epidemics by any means necessary.

2. Wakamiya-Oji-Shuhen-Isekigun Site (Onari-machi 747-1 and other points)

Discovery of one of the largest wells from Japan's medieval period

These survey sites are to the west of the southern end of Onari-dori Street, which extends southward from JR Kamakura Station, and the Sasuke River runs to the west of the survey sites. A recent excavation has revealed a half-underground building, a small river thought to be a branch of the Sasuke River, and other findings from the Kamakura period (1185-1333). Particularly notable is a rectangular well with a short side of about 2 meters and a long side of about 4 meters, which is one of the largest wells ever found in Japan. If the well was as large as this, it may have been used for something related to dyeing or other handicrafts. This is a valuable find for considering the nature of the relevant area.

3. Utsunomiya-Zushi-Bakufu-Ato Site (Komachi 2-351 and 352)

Approaching the reality of the shogunate?

The location of the Kamakura shogunate refers to the Shogun Goshō (shogun's residence) located in Kamakura City. This survey site is where the Shogun Goshō is presumed to have been, and it is located to the east of Ni-no-Torii (the second gateway to Tsurugaoka-Hachimangu shrine), facing Wakamiya Oji avenue.

Among the findings from the stratum presumed to be from the early Kamakura period (early 13th century) are buildings with posts driven into postholes aligned with Wakamiya Oji avenue, buildings that are thought to be half-underground warehouses, and wells. The remains of some buildings have revealed plates called foundation plates installed at the bottom of posts to prevent them from sinking. We cannot immediately conclude from this that these building remains were part of the Utsunomiya-Zushi-Bakufu, but they are certainly valuable finds for future research.

4. Zaimokuza-Machiya-Iseki Site (Zaimokuza 5-946-1)

The remains of a temple?

The excavation site is to the south of the road from Wakamiya Oji avenue to Kuhonji Temple.

The findings from the strata dating back to the late Kamakura period and the Muromachi period (the late fourteenth century to the sixteenth century) include numerous holes for erecting posts (postholes), the remains of a mudstone-paved road, and a cobblestone pavement presumed to have been a garden. Numerous tiles have been excavated from the area, which suggests the presence of a building with a tile roof. The discovery of a cobblestone-paved garden in combination with a building with a tile roof suggests the remains of a temple. There is also a theory that the Arai-no-Enmado (today's Ennoji Temple) was located near the investigation site.

5. Musashiooji-Shuhen-Iseki Site (Ogigayatsu 3-451)

Traces of a banquet

The excavation revealed a large amount of earthenware called "karawake" thrown away on both sides of an embankment, which is considered to have been the foundation of a fence. Karawake earthenware was used as tableware at feasts. The excavation of such a large quantity of karawake is evidence that large-scale banquets were being held. The fact that these remains were excavated from both sides of the fence may indicate that one corner of the mansion was used for cleaning up after feasts.

The artistic sense of the Kamakura people

The excavated decorative panel is a thin sheet about 35 cm long, 8 cm wide, and 5 mm thick, with red heart-shaped patterns at two places on the surface, colored with vermilion lacquer. These patterns, called "inome," are a design from ancient Japan, which was believed to be a talisman to ward off evil. Black lacquer remains on the back of the panel, so we can assume that it was formerly coated all over with black lacquer, with only the inome portion coated with vermilion lacquer.

A large quantity of wooden lacquerware has also been excavated. The surfaces are skillfully patterned in vermilion on a black background. Some of the designs seem to be geometrical, showing part of the artistic sense of the Kamakura people.

Panels with India-ink writing on them have also been excavated, which seem to have traces of brush breaking-in or brush-writing exercises. These panels were originally thin wooden tableware trays called "orishiki." At the time of a feast, these trays were used to carry karawake earthenware and other items. These panels have dense India-ink writing on both sides, but the characters are not distinctly written and the contents are not clear.



写真16 宇津宮辻子幕府跡(小町二丁目351番、352番地点)出土の硯
(photo16) Inkstone excavated from Utsunomiya-Zushi-Bakufu-Ato Site
(Komachi 2-351 and 352)



《掲載遺跡(出土地点)名称及び所在地一覧》

- | | |
|--|-----------------------|
| 1 北条泰時・時頼邸跡
<small>ほうじょうやすとき・ときよりでいあん</small> | (雪ノ下一丁目 369 番地点) |
| 2 右宮大路周辺遺跡群
<small>みぎのみちやうじん いせきぐん</small> | (御成町 747 番地 1 他地点) |
| 3 字津宮辻子幕府跡
<small>あづみのみやつじこばうふあと</small> | (小町二丁目 351 番、352 番地点) |
| 4 材木座町屋遺跡
<small>まきざちょういせき</small> | (材木座五丁目 946 番 1 地点) |
| 5 武蔵大路周辺遺跡
<small>ぶさいだいやうじん いせき</small> | (扇ガ谷三丁目 451 番の一部地点) |

鎌倉の埋蔵文化財 24

発行日 令和3年(2021年)3月22日
 編集・発行 鎌倉市教育委員会 文化財課
 〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号
 TEL : 0467(61)3857 FAX : 0467(23)1085
 E-mail : bunkazai@city.kamakura.kanagawa.jp
 印刷 テクノヤマモト